

平成 16 年度第 2 回評議員会議事録

1. 日 時 平成 17 年 3 月 27 日 (日) 10 : 30 ~ 15 : 00

2. 場 所 岸記念体育館 401・402 会議室

3. 出席評議員 (順不同・敬称略) :

(**加盟団体**) 北海道 : 浜田賢 (委)、岩手 : 榊頭治 (委)、宮城 : 相澤孝司、秋田 : 佐藤利秋、山形 : 斎藤和久、福島 : 佐藤利松、外洋北海道 : 小澤貢一、外洋津軽 : 木立正博、外洋いわき : 平崎正文 (委)、群馬 : 中川淳、埼玉 : 石井次男、千葉 : 斉藤威 (委)、東京 : 田中耕司、神奈川 : 浜崎濠次郎、山梨 : 羽田定造、新潟 : 立川喜代博、長野 : 横山真、静岡 : 中嶋浩二郎 (委)、外洋東京湾 : 福田義一、外洋三崎 : 川久保史朗、外洋三浦 : 外山昌一、外洋湘南 : 浪川宏 (委)、外洋東関東 : 横田光夫、外洋駿河湾 : 山田良昭、愛知 : 森信和、三重県 : 景山裕二 (委)、岐阜 : 伊藤和典 (委)、外洋東海 : 森岡稔夫 (委)、富山 : 番匠茂、石川 : 石倉喜八朗、福井 : 高間博之、滋賀 : 山田将人、京都 : 岩崎勝、外洋近北 : 樋口誠 (委)、兵庫 : 川上宏、奈良 : 安澤厚男、和歌山 : 山本嘉一、外洋内海 : 妹尾達樹、鳥取 : 善波周、島根 : 幸野孝治、広島 : 瀬尾潔、外洋西内海 : 金井寿雄、香川 : 葛西和久、愛媛 : 黒川重男、高知 : 文野順夫、福岡 : 岩瀬広志、佐賀 : 松山和興、長崎 : 今道穎治 (委)、熊本 : 本田肇、鹿児島 : 大迫哲弘、外洋玄海 : 冬至克也 (委)、外洋南九州 : 橋元幸一 (委) (**特別加盟団体**) 全学連 : 杉山嘉尚、高体連 : 澁谷有人、実業団 : 外尾竜一、自治体 : 小宮三雄 (委)、470 : 五味克博、シホパ° : 山近雅彦、レザ° : 山形和生 (委)、ウインド°サーフィン : 千葉貴生、シホス : 蛭子井貴、テザ° : 本吉譲治、ド°ラゴ°ン : 國井重人、49er : 高野学、J24 : 久保田悟 (委)、近北水域ミッド : 高橋利明、KYC : 猪上忠彦、刈大阪 : 小林昇 (委)、関西ミッド : 植松由量、関東ミッド : 野口隆司、外洋四国 : 瀬川洸城 (委)、湘南マリナ : 渡邊康夫、東海マリナ : 坂谷定生、瀬戸内海マリナ : 野田福美 (委)、学生外洋 : 中里英一 (委)、財務 : 市原恭夫、身障者 : 大塚勝、外洋女性 : 米田直子、シ°ャ°リ°ト : 森下嘉樹、設計 : 高橋太郎

以上、出席 80 名 (内、委任状出席 20 名)

欠席評議員 : (**加盟団体**) 青森 : 平久保長蔵、茨城 : 根本茂喜、栃木 : 森谷茲充、大阪 : 岩崎洋一、岡山 : 馬場正彦、山口 : 藤岡悞、徳島 : 石井良直、大分 : 後藤督、宮崎 : 後藤眞宏、沖縄 : 有銘兼一 (**特別加盟団体**) シュニア : 中根健二郎、ヨットクラブ° : 野尻敦也、スイ° : 澤村治男、FJ : 古屋勇人、OP : 国見悦朗、東海ミッド : 坂倉純二

以上、欠席 16 名

(**その他出席者**)

名誉会長 : 秋田博正、会長 : 山崎達光、副会長 : 戸田邦司、河野博文、専務理事 : 昇隆夫、理事 : 鈴木保夫、棚橋善克、前田彰一、高橋順一、稲葉文則、水谷益彦、中山明、吉田豊、秋山雄治、篠田陽史

監事：一條實昭、高田尚之、藤沢誠一、顧問：小田切満寿雄、米澤一
委員会：名方俊介レース委員長、日下部ルール委員会事務局長

以上、その他出席 22 名

4 . 議題事項

- 1) 平成 16 年度第 2 次補正予算 (案)
- 2) 平成 17 年度事業計画 (案)
- 3) 平成 17 年度予算 (案)
- 4) 次期新役員について

5 . 議事の経過および結果

(定足数の確認)

評議員 96 名中、出席 80 名 (内委任状 20 名) で、寄附行為第 34 条 5 項に基づく定足数を充たしており、本会は成立した。

(議長の選出及び議長の開会宣言)

寄附行為 34 条 3 項に基づき、議長の選出を行った。議長は浜崎濠次郎評議員に決定し、平成 16 年度第 2 回評議員会の開催を宣言があった。

(議事録署名人の任命)

本会の議事録署名人は議長指名により、高間博之、米田直子の両評議員が任命され、承認された。

(山崎会長挨拶)

山崎会長より、本評議員会におきまして重要案件等の審議のほどお願いしたい旨、挨拶があった。

議題 1) 平成 16 年度第 2 次補正予算 (案)

鈴木理事より資料に基づき、平成 16 年度第 2 次補正予算 (案) について説明があった。

平成 16 年度愛知万博特別会計については、平成 16 ・ 17 年度で事業が完了する。収支報告 (事務局経費) を明確にするため特別会計とし、予算総額は 250 万円とした。

平成 16 年度第 2 次補正予算の会計別について以下のとおりとした。

一般会計

事業費の寄付金および協賛金収入において、当初予算に比べて増額となり、それに伴い支出も増加したため補正した。内訳はウィンドサーフィン連盟への 500 万円ならびに日建レンタコムカップへの 1,600 万円、合計 2,100 万円。その他補正項目は、ア

テネオリンピック記念ポロシャツ作成及び販売費として、事業開発委員会収支（収入 160 万円、支出 169 万円）を増額とした。広告料収入については、実績を考慮して 210 万円減の 1,500 万円とし、オリンピック特別会計繰入支出を 210 万円減額した。事業費印刷製本費は、新ルールブック（RRS）作成費を当初予算より 150 万円増額の 300 万円とした。総合賠償責任保険が 100 万円増額、障害保険料が 100 万円減額となった。管理費の賃貸料において、事務機器等の代替リース料金が増額とした。予備費 2,970,000 円とした。

結果、当期収入は第 1 次補正予算 161,961,000 円に対して 18,366,000 円増の 180,327,000 円、前期繰越金と合計して 185,181,121 円とした。当期支出は 18,366,000 円増の 180,327,000 円、次期繰越収支差額は 4,854,121 円となった。

オリンピック特別会計

補正項目について、補助金等の収入が合計 6,172,000 円増加、オリンピック壮行会等の寄付金 210 万円増額となった。一般会計繰入収入は、広告料収入減により 210 万円減額とした。当期支出は補助金増加に連動して増額となった。また、オリンピック選手報奨金支出が発生した。アテネオリンピック特集号制作費は 1,165,000 円減額の 600 万円とした。予備費を 362,009 円とした。

結果、当期収入は第 1 次補正予算 65,642,000 円に対して 383,000 円減の 65,259,000 円、前期繰越金 6,853,009 円の合計 72,112,009 円となった。当期支出は 6,470,009 円増の 72,112,009 円、当期収支差額は 6,853,009 円マイナスとなった。

免税募金会計

アテネオリンピック免税寄付金が 100 万円減額したことにより、収入支出を補正した。結果、当期収入支出ともに 100 万円減額の 91,300,000 万円とした。

同意を得た。

議題 2) 平成 17 年度事業計画 (案)

昇専務理事より資料に基づき、平成 17 年度事業計画 (案) について説明があった。

平成 17 年度事業計画の重要項目として、常にセーリングの現場を見据えて事業展開することを基本として、メンバー登録、管理システムの IT 化、全日本選手権大会への補助金の復活、環境問題への取り組み強化、財政基盤の確立、愛・地球博記念国際セーリングシリーズの実施、スナイプ級世界選手権大会の実施、小笠原レースの復活実施の 7 項目としたとの発言があった。

同意を得た。

議題 3) 平成 17 年度予算 (案)

鈴木理事より資料に基づき、平成 17 年度予算（案）について説明があった。「前年度」数値は、平成 16 年度当初予算の数値としている。

一般会計

収入について、賛助会費収入を対前年度 610 万円増の 1,400 万円とした。その他の会費収入はほぼ前年度並みとした。広告事業収入はオリンピック広告料収入と一本化するため、1,000 万円を計上した。新ルールブック(RRS)販売収入を 820 万円見込み、補助金収入は確定していないものはゼロとした。オリンピック関係広告料収入は、広報委員会広告料収入と一本化したためゼロとした。その他収入については、各委員会事業計画および平成 16 年度実績を踏まえて計上した。

支出について、団体補助費を 200 万円計上した。事業費通信運搬費はオリンピック特集号と会報誌 J-SAILING を一体化させるため、発送費増加にともない平成 16 年度に対して 180 万円の増額となった。印刷製本費増額も同理由による。管理費賃借料は事務機の代替によるリース代で増額とした。オリンピック特別会計繰入金支出は、広報委員会支出がオリンピック特集号と一緒に支出増額となったため、これに見合う金額および事務局経費との合計 780 万円を、広告料収入から差し引いた 220 万円を繰入とした。予備費を 3,977,000 円とした。

結果、当期収入 151,083,000 円、当期支出 151,083,000 円、次期繰越金を 4,854,121 円とした。

オリンピック特別会計

収入を平成 16 年度に対し 2,096 万円増額の 101,250,000 円、支出は予備費を 6,686,900 円計上して、合計 101,250,000 円とした。

免税募金

収入を 5,720 万円とした。内訳は環境キャンペーン、愛知万博、コーチ事業関係の寄付金等である。

愛知万博特別会計

平成 16 年度予算と同額の 250 万円を計上した。

横田評議員より、艇登録料についてクラス別協会からの登録料の徴収時期について、外洋統括委員会事業（IMS、ORC クラブ）の事業計画と予算に整合性がないとの質問があった。

澁谷評議員より、クラス協会からの登録料徴収についてクラス別協会へ説明していただけるのかとの質問があった。

河野副会長より、クラス別協会からの登録料の徴収については、艇登録制度を明確化した上で、理事会検討事項とする。また、外洋統括委員会の平成 17 年度事業計画と予算に整合性については、継続性のある事業について掲載していないとの回答があった。

杉山評議員より、昨年度廃止とされた全日本補助金について、平成 17 年度に予算計上されている財源について質問があった。

昇専務理事より、平成 17 年度全日本補助金については、JSAF 環境キャンペーン事業に寄付金が得られ、賛同いただける全日本主催団体に具体的な実施内容（JSAF 環境キャンペーン事業のロゴ・旗等の掲示、ビーチクリーン活動）ならびに補助金額を提示していきたいとの回答があった。

同意を得た。

議題 4) 次期新役員について

浜崎議長より、寄付行為 18 条より、以下の次期選出理事 27 名・監事 3 名の選任をお願いしたい旨、発言があった。会長候補理事 1 名（山崎達光）、全国区選挙理事 8 名（前田彰一、大庭秀夫、昇隆夫、前田多満枝、安藤淳、中野佐多子、富田稔、稲葉文則）、水域推薦理事 13 名（棚橋善克、伊藤宏、篠田陽史、大門功、宮崎史康、谷貢、西田昭二、名方俊介、野口隆司、河内道夫、吉田豊、猪上忠彦、外山昌一）、全国区選挙監事 3 名（一條実昭、貝道和昭、高田尚之）、次期会長推薦理事 5 名（井手正敬、河野博文、戸田邦司、青山篤、石橋國雄）。

次期理事・監事選任について、満場一致で承認された。

浜崎議長より、次期会長・副会長・専務理事・常務理事を選出するため、新役員による理事会を開催する旨、発言があった。

山崎会長より、新役員による理事会を開催した旨、報告があった。平成 17・18 年度次期役員について寄付行為 18 条 2 項より、次期会長は山崎達光、次期副会長は戸田邦司、河野博文の 2 名。また、専務理事、常務理事は寄付行為 18 条 3 項に基づき理事会の互選で、専務理事に昇隆夫、常務理事に前田彰一を選出した旨、発言があった。

山崎次期会長より、長期にわたり理事職を務めていただいた現理事各位に御礼があった。アテネオリンピックでの銅メダル獲得は、日本セーリング界を歓喜させた。

昨年埼玉国民体育大会では、観客動員約 5 万人を集め、見せるヨットを展開できた。

愛・地球博記念国際セーリングシリーズへの協力をお願いしたい。16 年ぶり開催の小笠原ヨットレースに外洋レース復活を期待したい。ニッサンカップ、アビームカップ等の国際大会開催への協力をお願いしたい。実務的な委員会組織改革をしていきたい。財政の健全化。外洋統括委員会の健全な活動を推進していくとの挨拶があった。

その他（報告事項および質問）

- (1) 加盟団体、特別加盟団体より活動報告があった。
- (2) 埼玉県北川辺町町長から平成 16 年度埼玉国民体育大会の御礼の挨拶があった。
- (3) 中山総務委員長より資料に基づき、平成 17 年度挙行定期表彰について、受賞候補者推薦依頼があった。また、資料に基づき財団法人日本セーリング連盟の連盟行動規範を作成について報告があった。
- (4) 森評議員より資料に基づき、平成 16 年 12 月 27 日付け、中部ヨット協会から財団法人日本体育協会宛に送付された「国体セーリング競技少年種目へのセーリングスピリッツ級（以下、SS 級という）の導入について」の文書について、中部ヨット協会とは無関係であり断固抗議する。内容は、連盟理事会へ平成 17 年 1 月 22 日に報告済であるとの発言があった。
- (5) 川上評議員より資料に基づき、第 61 回のじぎく兵庫国体少年男女種目へのセーリングスピリッツ級の導入について、早急なる決定をしていただきたいとの発言があった。
- (6) 植松評議員より資料に基づき、外洋計測（ORC クラブレーティング）取得登録について、発行日数の早急化を連盟予算措置も踏まえてご検討いただきたいとの要望があった。
- (7) 澁谷評議員より資料に基づき、国体少年男女種目へのセーリングスピリッツ級の導入について、財団法人全国高等学校体育連盟ヨット専門部の意見があった。過去の評議員会では、導入に対して賛否保留の状態である。都道府県高等学校ヨット部の意思統一がなされていない等々の発言があった。

以 上

本日の評議員会の議題は上記の通り議決承認されたので、議事録署名人は記名捺印する。

平成 17 年 3 月 27 日

議 長 浜崎濠次郎

議事録署名人 高間 博之

議事録署名人 米田 直子